

今後の花粉症患者動向調査について

東京慈恵会医科大学非常勤講師
浅香大也

平成 28 年度に東京都で実施した花粉症患者実態調査によると東京都のスギ花粉症推定有病率は 48.8%であった。さらに同調査によると医療機関による治療の大半は第二世代抗アレルギー薬による薬物療法であった。アレルギー性鼻炎に対する薬物療法はその他噴霧型ステロイド薬や抗ロイコトリエン薬があり、また近年舌下免疫も普及してきている。しかし多様化するスギ花粉症治療と花粉数や受診状況、自覚症状との関連性は不透明である。

今回、現行実施している花粉症患者動向調査に加え、舌下免疫療法との関連についての調査の実施を検討する。

【調査内容】

○継続する調査

花粉飛散が花粉症患者の症状に与える影響を把握する。

- ・耳鼻咽喉科医院において、スギ・ヒノキ花粉飛散時期前後に来院する患者数等を調査する。(休診日を除く毎日)
- ・調査項目
 - ①スギ・ヒノキ花粉症初診患者数
 - ②スギ・ヒノキ花粉症再診患者数
 - ③毎日の花粉症患者全体の症状の印象
- ・調査結果は花粉症対策検討委員会にて報告する。

○追加する調査

浅香耳鼻咽喉科の来院の花粉症患者のうち、舌下免疫療法の受診の有無による治療効果について、調査項目との相関の検討を行う。

- ・調査項目
 - ①舌下免疫療法患者の再診患者数
 - ②日本アレルギー性鼻炎標準 QOL 調査票による受診時の自覚症状
 - ③服薬状況 (含む舌下免疫)